

五所川原で年5(年に5回)企画の第一弾

ちょっと体の調整しませんか?

「一人でできるマッサージ、楽しく知ることができました。ぜひ自宅でやってみます」…
「自分の体の痛みなどを整体・ツボで調整してみませんか」と組合員に参加を呼びかけた学習会が、4月26日、五所川原市内の公民館で行われました。整体師の資格をもつ山本由美子さん(青森地域の組合員)を講師に、家で簡単にできるツボマッサージや整体を体験した参加者からは、「楽しかった」「またやってほしい」という声が出されていました。

くらしのたすけあいの会 青森地域のつどい

2016年度会員数と活動実績

◆2017年3月現在
※()内は前年度

活動エリア	利用会員	活動会員	賛助会員	合計	活動件数	活動時間
八戸・三沢地域	64(61)名	31(37)名	30(30)名	125(128)名	898(764)件	1,840.0(1,490)時間
弘前・黒石地域	20(14)名	22(18)名	26(39)名	68(71)名	674(454)件	884.5(635)時間
青森地域	95(86)名	35(30)名	54(66)名	184(182)名	863(856)件	1,485.0(1,439)時間
むつ・下北地域	10(8)名	10(10)名	3(2)名	23(20)名	122(176)件	213.5(328)時間
合計	189(169)名	98(95)名	113(137)名	400(401)名	2,557(2,250)件	4,423.0(3,892)時間

ちょっと困ったとき、組合員どうしあわいさまの気持ちで助け合うコープ「くらしのたすけあいの会」の活動が、県内4つの地域で取り組まれています。新年度スタートに当たり、青森地域での「会員のつどい・交流会」が4月25日、コープあおもり本部で開催されました。昨年度の振り返りや今年度の活動計画について報告・意見交換が行われ、その後、青森保健生協の健康運動指導士、福士学さん(写真円内)を講師に「ロコモ予防について」と題する講演と骨や腰・筋肉などの機能の衰えを予防するストレッチの体験が行われました。参加者からは、「大変勉強になりました」という感想などが出ていました。

トピックス

**生協ねぶた28度目の出陣へ
4月26日、安全祈願祭**

「親子で安心して参加できるねぶたがほしい」… そんな願いに応え、取り組みがスタートした生協ねぶたが、今年、連続28度目の出陣を迎えます(8月2~3日の運行)。生協ねぶたの制作場所となる青森市郊外の倉庫には、ねぶたの骨組み(テーマは「鬼若丸」)が搬入され、6月5日からは紙はりがスタートしています。「地域の文化」である伝統行事を次代につなげていく取り組みとして、組合員の自主的な活動に加え、取引先や職員など、多くの協力に支えられる生協ねぶたには、今年も、「福島の子ども保養プロジェクト」の一環として、福島の親子が招待されることになっています。

4月6日、松原店オープン

建て替えのため、昨年の8月22日から休店していたコープあおもり「松原店」(弘前市松原東)が完成し、4月6日、オープンしました。開店を待つ多くの来店者が長い列をつくり、この日を待っていたという組合員の笑顔が見られました。



テープカットが終わるといよいよオープンです。オープンに先立ち、コープあおもりの関係者や地元町会の町長、地域の組合員代表などによるテープカットが行われました。店舗の前には開店を待つ来店者の長い列ができるなど、多くの来店者に支えられ、順調なスタートを切りました。組合員からは、「きれいになって広くなつたね!」「商品も種類が豊富で楽しいね!」等の声が寄せられています。



オープンセールには地域の組合員も応援。開店を待つ来店者にお茶のサービスや来店者への花のプレゼントなどにあたっていました

熊本で、つながり、連携を伝える「感謝のつどい」

熊本地震緊急募金へのご協力、ありがとうございました

熊本地震の発生から1年が経過するのを前に、2月27日~28日、熊本県生協連主催による「感謝のつどい ~ありがとう熊本支援~」および、現地の視察会が行われました。つどいには、全国各地からの生協の代表に加え、地元の行政や社会福祉協議会の関係者が出席、コープあおもりからは現地で仲間づくり活動の支援にあたった山口将人さん(浪岡センター)が出席しました。現地での活動報告や行政による基調講演のほか、「大規模災害における生協の役割と連携のあり方」をテーマにパネルディスカッションが行われ、主催者からは、支援に対する感謝の言葉とともに、今後も息の長い支援について要請がありました。ちなみに、コープあおもりが組合員に呼びかけた緊急募金には5,410,287円の善意が寄せられています。

▲「全国の生協が支援のために現地入りしており、生協のネットワークの凄さをあらためて感じました」「益城町の景観(風景)は前回と少し違って見えましたが、倒壊した家々があつたところが更地になっただけで、復興にはまだまだ時間がかかる印象でした」… つどいに出席した山口将人さん

▲町内最大の避難所となった益城町総合体育馆(山口さん撮影)

さようなら原発・核燃集会

「原発いらない」「子供を守ろう」… 3月5日(日)、東京電力福島第1原発事故発生から6年を迎えるのを前に、さようなら原発・核燃「3.11」青森集会が、青森市内で行われました(主催はコープあおもりも構成メンバーとなっている「なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク」)。原発事故により、福島県では今なお多くの方が避難生活を余儀なくされ、被害の甚大さは深刻さを増しているといわれます。集会には約800名が参加(主催者発表)、「再生可能エネルギー政策への転換」などを求める集会決議の採択が行われ、終了後、市内をデモ行進しました。